

令和 5 年 5 月 1 2 日  
四 国 電 力 株 式 会 社

## 「防災訓練実施結果報告書」の原子力規制委員会への提出について

当社は、「伊方発電所原子力事業者防災業務計画」および「伊方発電所原子炉施設保安規定」に基づき種々の訓練を実施しております。そのうち、原子力災害対策特別措置法第 13 条の 2 第 1 項の規定に基づく報告対象の訓練※について「防災訓練実施結果報告書」としてとりまとめ、本日、原子力規制委員会に提出しました。

その要旨は、別紙のとおりです。

### 別紙 「防災訓練実施結果報告書」の要旨

※：原子力災害対策特別措置法第 13 条の 2 第 1 項の規定に基づく報告対象の訓練  
伊方発電所 原子力事業者防災業務計画に基づき実施した下記訓練をいう。

- ・ 防災訓練
- ・ 通報訓練
- ・ AM（アクシデントマネジメント）訓練
- ・ 緊急時対応訓練
- ・ モニタリング訓練
- ・ 原子力災害医療訓練
- ・ 避難誘導訓練
- ・ 緊急時支援組織対応訓練

以 上

## 「防災訓練実施結果報告書」の要旨

令和4年6月17日（令和3年度総合訓練後の要素訓練の翌日）から令和4年12月9日（令和4年度総合訓練）の間に、当社伊方発電所等で実施した総合訓練および要素訓練について、原子力規制委員会へ報告した。その要旨は以下のとおり。

### 1. 報告年月日

令和5年5月12日

### 2. 防災訓練実施結果の要旨

（1）総合訓練（実施年月日：令和4年12月9日 参加人数：238名）

#### a. 訓練目的

- ①重大事故等発生の想定においても、原子力防災組織があらかじめ定められた機能を有効に発揮することを確認する。
- ②昨年度までの訓練結果を踏まえた、課題に対する改善活動の有効性を確認する。

#### b. 想定事象

- ・通常運転中の3号機において、地震（伊方町震度6弱）が発生し、変電所トラブルの波及によりプラントトリップに至る。その後、予備変圧器および非常用ディーゼル発電機が相次いで故障し、全交流電源が喪失する。
- ・非常用ガスタービン発電機および空冷式非常用発電装置による電源復旧対応を進めるが、故障等により給電できず、特重施設からの給電は、しゃ断器の故障により直ちに受電ができず、電源復旧が難航する。全交流電源喪失状態が継続し、原子力災害対策特別措置法第10条事象、15条事象に至る。
- ・電源復旧ができない状況で1次冷却材ポンプのシール部から、1次冷却材の漏えい（LOCA）が発生する。

#### c. 訓練項目

##### ○ 防災訓練

災害対策本部の活動について実動訓練を行い、非常体制発令・非常招集、原子力災害の状況把握、伊方発電所と原子力施設事態即応センター（災害対策本部（松山、高松））および災害対策本部（東京支社）との情報連携を実施。加えて、災害対策本部（高松）から事業者間協力協定事業者（当社発災時の幹事会社である中国電力株式会社）への災害状況および支援要請に係る連絡を実施。また、模擬記者会見によるプレス対応、模擬ホームページへの掲載など、各災害対策本部におけるオフサイト活動の確認も合わせて実施。

##### ○ 通報訓練

伊方発電所における原子力災害の発生について、原子力防災管理者より原子力規制庁緊急時対応センター（ERC）への通報連絡および社内関係個所への情報連絡を実施。

- AM（アクシデントマネジメント）訓練  
過酷事象を想定し、原子力防災要員によるプラント状況の把握や事象進展予測等のアクシデントマネジメント活動を実施。
- 緊急時対応訓練  
全交流電源喪失事象発生等の事象進展に応じた電源確保や水源確保をはじめとする緊急時対応訓練を実施。
- モニタリング訓練  
敷地内のモニタリング（模擬）、モニタリングポストの監視、気象情報の収集および可搬型モニタの設置等を実施。
- 原子力災害医療訓練  
管理区域内で負傷者が発生したことを想定し、負傷者の搬出、汚染の除去および応急処置の訓練を実施。
- 避難誘導訓練  
発電所構内および伊方ビジターズハウス（当社PR館）館内の見学者（模擬）に対する避難誘導を実施。
- 緊急事態支援組織対応訓練  
災害対策本部（高松）から原子力緊急事態支援組織である美浜原子力緊急事態支援センターに対して災害状況および支援要請に係る連絡を実施。

#### d. 訓練の評価

今回の総合訓練では、通常運転中の3号機において地震により全交流電源が喪失し、その後1次冷却材ポンプのシール部から1次冷却材の漏えいが発生するなどのシナリオを想定し訓練を実施した結果、計画段階で期待した目標を達成することができた。

社内関係個所の各対応要員は、原子力事業者防災業務計画、関係手順等に基づき活動できていたことから、原子力防災組織があらかじめ定められた機能を有効に発揮し、原子力災害対策活動を実施できたと評価した。

また、前回の総合訓練（令和4年1月25日実施）において確認された課題（松山本部から原子力規制庁の緊急時対応センター（ERC）への情報連携）については、改善活動を実施し、令和3年度総合訓練後の要素訓練（令和4年6月16日実施）および今回の総合訓練において改善されていることを確認した。

#### e. 改善活動

訓練を踏まえて以下の改善点が抽出されたことから、対応能力の更なる向上のため改善活動に向け取り組んでいく。

- ・ERCへのタイムリーな情報提供につながるプラント情報の重要度の再整理  
および社内マニュアルへの反映

本改善活動の実施状況について検討を実施し、今年度の訓練において改善活動の検証を実施する。

## (2) 要素訓練

### a. 通報訓練

#### ① 実施年月日、参加人数

- ・令和4年7月22日（午前） 参加人数：15名
- ・令和4年7月22日（午後） 参加人数：15名
- ・令和4年7月27日（午前） 参加人数：15名
- ・令和4年7月27日（午後） 参加人数：15名

#### ② 訓練項目

シナリオ非提示型の通報訓練において、連絡責任者および連絡当番者による通報FAXの作成・送信を実施。なお、社外通報先へのFAX送信および後追い連絡は模擬（社内でのFAX送信およびコントローラへの電話連絡）にて実施。

#### ③ 訓練の評価

通報連絡に関して問題となる事項はなかった。

### b. 原子力災害医療訓練（実施年月日：令和4年10月12日 参加人数：14名）

#### ① 訓練項目

伊方発電所の管理区域内・外で汚染等を伴う多数傷病者が発生したと想定し、関係自治体および医療関係機関等の関係機関との合同にて、ヘリコプター、救急車および社有車による傷病者搬送を実施。また、拠点病院である松山赤十字病院にて汚染のある患者の引渡しを実施。

#### ② 訓練の評価

原子力災害医療に関して問題となる事項はなかった。

以 上